

1 単元について

対 象 学 年	中学校 第1学年
学 習 指 導 要 領	第1学年の内容 C読むこと(1)エ 言語事項(1)ウ
単 元 名	言葉を読み味わう『少年の日の思い出』(全8時間)
単 元 目 標	<p>読みの視点に基づいて読み進めるとともに、作品に描かれている主題について考え、自分の考えを深めようとすることができ、読書に親しむことができる。 (国語への関心・意欲・態度)</p> <p>つぐないのできない行為をした結果が一生の心の傷みとして残っていく僕の心情と苦々しくつらい気持ちを、文章の展開や表現の意味・内容、心情表現や情景描写に注意して読むことができる。 (読む能力)</p> <p>文章中における語句の効果的な使い方や象徴的な表現に気付き、文章の特徴をつかむことができる。 (言語についての知識・理解・技能)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 個の学習状況に応じた多様な指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学の読みにおいて、一人一人が読みの視点を明確にもって読み進めることが出来るよう、生徒の初発の感想を生かした読みの視点を生徒とともに考えていく。 ・自分の考えの深まりを生み出すために、意見交流や教え合いを重視する。そのために、一人読み・班交流・全体交流を形態として取り入れ、学習活動を進める。 ・全ての生徒が自分の意見を発表し、教え合いが成立するように、話し合いの進め方を考え、学習プリントなどに提示していく。 <p>一人一人のよさや進歩の状況の評価結果を学習活動に生かす指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習進度と学習の見通しが一人一人にもてるようなガイダンスプリントを作成し、生徒に配布をする。さらに、毎時間の進路状況を記入させ、実態把握に努める。 ・授業の終末に必ずまとめを書く時間を確保し、「何がわかったのか」「それはどの表現からか」「仲間のどの意見を参考にしてみとめたのか」など明らかにして書かせ、評価規準にてらして評価していく。 <p>【言語活動】 文学作品を通し、一語一語を読み味わい、表現への興味・関心をもたせること</p> <p>【言語意識】 (相手) 同じ視点を持つ仲間と (目的) 単元全体を通した課題を解決するために (場面・状況) 一人読み、班交流、全体交流を中心に (方法) ガイダンスプリント 学習プリントを使って (評価) 仲間の読みと自分の読みを比べ、自分の考えに深まりが生まれているかを自己評価する。</p>
参 考 資 料	<p>資料1：ガイダンスプリント...学習進度と学習の見通しをもつためのもの。また、毎時間の自己評価を行うために使用。</p> <p>資料2：学習プリント...毎時間場面分けをした学習プリントの中に、一人読み、仲間の意見の書き込み、自己評価をするために使用。</p>

2 単元の評価規準

	ア 国語への関心 ・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解 ・技能
内容のまとまりごとの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容を的確に理解しようとするとともに、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している。 ・書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている。 ・目的や必要に応じて要約している。 ・文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分けている。 ・文章の構成や展開を正確にとらえ内容の理解に役立てている。 ・文章の展開を確かめて、主題を考えたり要旨をとらえたりしている。 ・文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。 ・様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。 ・文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。 ・単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読んでいる。 ・話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解して読んでいる。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点に基づいて読み進めるとともに、作品に描かれている主題について考え、自分の考えを深め、人物の行動や性格について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の設定の意味など表現の特徴や工夫に注意しながら読み主人公の心情の変化をとらえている。 ・作品を読んで、登場人物の行動や性格について、自分の意見をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中における語句の効果的な使い方や象徴的な表現に気付き、文章の特徴をつかんでいる。
単位時間における具体の評価規準	<p>『少年の日の思い出』を読み、200～300字程度の感想を書こうとしている。</p> <p>読み深めていきたいことをもとに、主人公の心情の変化を核とした自分の学習課題と読み深めの視点をもとうとしている。</p> <p>読みの視点にしたがって、自分の読みをノートに書こうとしている。</p> <p>表現から作者の思いや意志、願いを考え、自分の生活を見つめての考えをもとうとしている。</p>	<p>思い出を語るにはあまりに苦しくつらい「僕」の心情を、言葉や会話、しぐさや行動、情景描写に着目して理解している。</p> <p>美しいちょうを捕らえる瞬間の緊張と歓喜に魅せられた自分とちょうだけの世界にのめり込んでいる「僕」の熱情を理解している。</p> <p>自分の自慢であったコムラサキを捕らえた喜びがエーメールによって傷つけられ自分だけの世界に閉じこもっていく僕のエーメールに対するねたみを含む嫌悪感を理解している。</p> <p>自分の宝物であり、自分の世界の象徴であるちょうを自ら潰してしまったことに対する「僕」の悲しみの気持ちを理解している。</p> <p>自分のしてしまった行為の重さとそうなってしまった今までの生活を見つめ、後悔の気持ちに決着をつけるためちょうと訣別していく「僕」のつらい気持ちを理解している。</p> <p>「朝」という言葉から、それに関わる表現との関係を考え、「我々一人一人は、同じ地球上の仲間であり、同じ時間を生きている仲間である」という作者の思いを理解している。</p>	<p>象徴的な表現の効果に気付いている。</p> <p>象徴的な表現の効果に注意しながら読んでいる。</p>

3 指導と評価の計画<全8時間>

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	全文を通読し、内容のおおよそをとらえ、第一次感想を書くことができる。	<p>題名から想像したことを交流する。 筆者について便覧で調べる。 範読を聞いて感想をまとめる。</p> <p>印象に残った場面を中心に第一次感想をまとめよう。</p> <p>新出漢字と難語句を確認する。</p>	<p>アー 『少年の日の思い出』を読み、感じたことを書こうとしている。</p> <p>オー 象徴的な表現の効果に気付いている。</p>	<p>観察・学習プリント 感想が書けているか評価する。</p>	<p>印象に残った部分、さらに読み深めたいことなど含め、作品について感じたことを自由に書くように助言する。</p> <p>新出漢字を正しく覚えるよう助言する。</p>
2	全文を通読し、内容のおおよそをとらえながら、全体の場面分けをすることができる。	<p>第一次感想から、疑問を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ、僕は嫌な思い出を語ろうとするのか。 なぜ、盗みを犯してしまったのか。 なぜ、自分のちょうを粉々につぶしてしまったのか。 <p>全体を音読して、あらすじにまとめよう。</p> <p>本文を音読して、あらすじにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の確認をする 前半に現在の様子、後半は「僕」の回想が書かれている 全体が三場面になっていることが分かる。 <p>読み進めていく上での方向性を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主人公「僕」の心情を読み進めていく。 心情読みの際の視点を確認しておく。 	<p>アー 読み深めていきたいことをもとに、主人公の心情の変化を核とした自分の学習課題と読み深めの視点を持っている。</p> <p>オー 象徴的な表現の効果に注意しながら読んでいる。</p>	<p>観察・発言 学習プリント 主人公の心情の変化に着目した場面分けをしているか評価する。</p>	<p>どんな点に感想が集中しているかに着目するよう助言する。</p> <p>象徴的な表現がある場合とない場合を比較させる等の指導を行う。</p>
3 本時	思い出を話していくにはあまりにも苦しくつらい「僕」の思いを、言葉や会話、しぐさや行動、情景描写に着目して読み取ることができる。	<p>現在の場面を読み、ちょうの話を聞いてもらおうとする「僕」には、どんな思いがあるのか考える。</p> <p>「ひとつ聞いてもらおう」とする「僕」にはどんな気持ちがあるのか考えよう。</p> <p>どんな場面の、どんなところに着目したのか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「僕」の言葉、会話から考える。「よみがえって」「もう、結構」 「僕」の行動、しぐさから考える。「微笑」「巻きたばこを求めた」 その場面の情景描写から考える。「やみ」「かえるが...」 <p>授業のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの顔が闇に沈んで見えなくなってしまうような暗さの中、かえるが遠くで闇一面に鳴いているのが聞こえるような静かな場面で、客はつらく苦しい過去の出来事を自分自身で告白しているような気持ちで語り始めた。 	<p>エー 思い出を語るにはあまりに苦しくつらい「僕」の心情を、言葉や会話しぐさや行動、言葉、情景描写に着目して理解している。</p>	<p>観察・発言 学習プリント 「僕」の心情をしぐさや行動、言葉、情景描写の表現を用いてまとめているか評価する。</p>	<p>登場人物の表記を再度確認し、混乱を避ける。</p> <p>読みの視点を再度確認する。</p> <p>読みの視点を有効に使い、まとめて書くよう助言する。</p>
4	「遊技のとりこ」「あの情熱」等の表現を通して、美しいちょうを捕らえる瞬間	<p>過去の前半1を読み、「僕」がちょう集めに夢中になっているのは、どんな表現から読み取れるのか考える。</p> <p>ぼくはどうしてこんなにちょう集めに心を打ち込んだのだろうか。</p>			

	<p>の緊張と歓喜に魅せられ自分とちょうだけの世界にのめり込んでいく僕の熱情を読み取ることができる。</p>	<p>表現をもとに、読み取ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「美しいちょうを見付けると、特別に珍しいのでなくたってかまわない」からとにかくたくさん集めたい。 ・「とらえる喜びに息もつまりそう」から息を詰めて、緊張して捕らえることに心を打ち込んでいる。 ・「幼い日の無数の瞬間」「まるで宝を探す人のように」から集めることも、捕らえることも喜びだった。 ・「しのび寄って」から近くで見て「緊張」や「歓喜」を感じている。ちょうのとりこになっていた僕。 <p>授業のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」にとってちょうが最高のものであり、どんなものにも代え難い魅力をもつものであった。その美しさと、捕らえる喜びが「僕」をつかんで離さなかった。 	<p>エー 美しいちょうを捕らえる瞬間の緊張と歓喜に魅せられた自分とちょうだけの世界にのめり込んでいる「僕」の熱情を理解している。</p>	<p>観察・発言 学習プリント 僕にとって最高のものであり、どんなものにも代え難い魅力をちょうは持ちその美しさと喜びを根拠となる表現を用い書きまとめてあるか評価する</p>	<p>「僕」のちょうをに打ち込む姿を表現から見付けられるよう助言する。</p> <p>自分の考えと、仲間の視点を盛り込みまとめを書かせる。</p>
5	<p>「せめて...見せよう」「二度と見せなかった」の表現を通して、自分の自慢であった青いコムラサキを捕らえた喜びがエーメールによって傷つけられ、自分だけの世界に閉じこもっていく僕のねたみを含む嫌悪感を読み取ることができる。</p>	<p>過去の前半2を読み、コムラサキの喜びを傷つけられた「僕」は、どんな気持ちになっているのか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ちょうに対する喜びを傷つけられた僕はどんな気持ちだろうか。</p> </div> <p>表現をもとに、読み取ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エーメールが憎い。せっかく人が喜んでいのにひどい。 ・自分の方が立派だということを自慢しているようでいやみだ。 ・僕とは違っている。僕は自分で収集を楽しもう。 ・エーメールの世界では価値のないことでも、僕にとっては宝物であり、足がなくても、たいした欠点ではなかった。 <p>授業のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エーメールに対する嫌悪と自分の獲物が傷つけられた悲しみがあり、自分だけの世界に浸っている「僕」である。 	<p>エー 自分の自慢であったコムラサキを捕らえた喜びがエーメールによってきづつけられ自分だけの世界に閉じこもっていく僕のエーメールに対するねたみを含む嫌悪感を理解している。</p>	<p>観察・発言 学習プリント エーメールに対する嫌悪感と自分の悲しみ、自分だけの世界に浸っている「僕」を、根拠となる表現を用いて書きまとめてあるか評価する。</p>	<p>「僕」が自分の設備や収集を自慢できないでいることを明らかにさせる。</p> <p>エーメールへの憎しみと、自分とは違った人間ということ、「僕」とエーメールのちょうについての表現の違いからとらえさせていく。</p>
6	<p>「盗みをしたという気持ちより、~ちょうを見ているほうが、僕の心を苦しめた」等の表現を通して、自分の世界そのものであるちょうを自らつぶしてしまったことに対する僕の悲しみの気持ちを読み取ることができる。</p>	<p>過去の後半1を読み、つぶれてしまったクジャクヤママユを見ている「僕」はどんな思いなのかを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>つぶれてしまっていたクジャクヤママユを見ている僕はどんな気持ちなのだろうか。</p> </div> <p>表現をもとに、読み取ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つぶれてしまったので、返そうとしてもだめだった。つぶれたことが悲しくて仕方なかった。 ・「盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった~」から、盗んだことを何とかしようという気持ちはない。 ・「美しい、めずらしいちょう」だと分かっていたし、羽や羽の粉を見ていると二度と元に戻らないことがいっそうきっかりして、「どんな持ち物でも楽しみでも」という気持ちになった。 <p>授業のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もとにもどることのない美しいちょうを 	<p>エー 自分の宝物であり、自分の世界の象徴であるちょうを自ら潰してしまったことに対する「僕」の悲しみの気持ちを理解している。</p>	<p>観察・発言 学習プリント 自分の手で潰してしまった悲しみと後悔を入り混じった僕の心情を、根拠となる表現で書きまとめてあるか評価する。</p>	<p>クジャクヤママユをつぶしてしまったという取り返しのつかないことをしてしまったこの出来事の大きさにおののく「僕」を読み取らせる。</p>

		<p>自分の手でつぶしてしまった悲しみと後悔が入り混じりどうにもしかたない「僕」である。</p>			
7	<p>「ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまっ」等の表現を通して、今までの生活を見つめながら今の後悔の気持ちの決着をつけるために、ちょうとの訣別をしていく僕のつらい気持ちを読み取ることができる。</p>	<p>後半2を読み、軽蔑的にエーメールに見つめられ、「僕」は絶望感を感じ、最後には宝物であったちょうを一つ一つつぶしてしまう「僕」には、どんな気持ちがあるのか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>宝物であったちょうを一つ一つ取り出し、つぶしていく僕は、どんな気持ちなのだろうか。</p> </div> <p>表現をもとに、読み取ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょう集めに夢中になっていたことがいけなかった。 ・彼の気持ちを考えると自分だけ何も失わないわけにはいかない ・いままで宝物だったものをつぶすのはつらい。 ・一つ一つには思い出が詰まっていたはずでそれらが全て蘇りつらかった。 ・今までのちょう集めやその生活そのものを大切にしたい気持ちが、自分の行為を許せないこととしてどうしても決着をつけなければならなかった。 <p>授業のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出すべてがちょう一つ一つに詰まっていて、「僕」のちょうへの訣別や、自分の今までの生活との訣別する気持ちから、一つ一つ指で粉々にした。 	<p>エー 自分のしてしまった行為の重さとそうってしまった今までの生活を見つめ、後悔の気持ちに決着をつけるためちょうと訣別していく「僕」のつらい気持ちを理解している。</p>	<p>観察・発言 学習プリント 一つ一つ指で粉々に潰したときの気持ちと、今までの自分との訣別が、根拠となる表現で書きまとめてあるか評価する。</p>	<p>絶望の気持ちで家へ帰ったことをおさえる。</p> <p>今までの場面の読みが、この場面はどうつながるのかを考えさせる。</p> <p>箱ごとではなく、「一つ一つ」であり、「粉々に」つぶしていく僕の姿に気付かせ、ちょうへの思いの深さを考えさせる。</p>
8	<p>「朝のリレー」という詩を読み、「朝」という言葉に着目しながら、作者の若者に対する「一人一人は、同じ地球の中で、同じ時間を生きている仲間である。」という思いを読み取ることができる。</p>	<p>「朝のリレー」を読み、初発の感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書かれてあることが自然と頭の中に浮かんでくる。 ・題名を読むだけでは何のことが分からなかったが、読んでいくと納得できた。その土地によって朝が違うことを「リレー」でたとえているのだと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>詩の表現に着目して、作者は読者に何を伝えようとしているのか。</p> </div> <p>表現をもとに、読み取ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場所の「朝」が描かれ、どんな人にも「朝」は必ず来る。 ・「リレー」はつなぐものであり、「朝」をそれぞれでつないでいくこと。 ・「朝」は一つのものであり、これをつないでいこうとしている。太陽も一つであり、同じ時間を共有していることが分かる。 ・「のだ」には作者の思い、意志が込められている。 <p>授業のまとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなに離れていようとも、どんな場所、生活をしていようとも、「朝」は誰にでもやってくる。生活環境や場所が違おうとも、私たちは同じ「朝」を共有している、同じ空間で生きる仲間である。 	<p>ア 表現から作者の思いや意志、願いを考え、自分の生活を見つめての考えをもとうとしている。</p> <p>エー 「朝」という言葉から、それにかかわる表現との関係を考え、「我々一人一人は、同じ地球上の仲間であり、同じ時間を生きている仲間である」という作者の思いを理解している。</p>	<p>観察・発言 学習プリント 表現から作者の思いや意志、願いを考え、根拠となる表現や考えをもとに書きまとめてあるか評価する。</p>	<p>着目させたい言葉 「朝」「リレー」「送った」「するのだ」「なのだ」「いつもどこかで」「どこかと遠くで」などから、作者の思いを考えさせていく。</p> <p>言葉と言葉のつながり、関係などから、作者の思いが考えられるよう、アドバイスをする。</p> <p>交流し、練られた作者の思いである言葉を必ず入れ、まとめさせる。</p>

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・思い出を話していくにはあまりにも苦しく、つらい「僕」(客)の思いを、言葉や会話、しぐさや行動、情景描写に着目して考えることができる。

(2) 本時の位置

3 / 8時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	形態	評価について	指導・援助
導入	<p>第一場面を音読して、話の流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の文章中での表記の確認をする。 ・お互いに、子供や幼い日の思い出について話し合っている。 ・宿の主人のちょう集めの話から、「僕」(客)も自分の過去の話をしようとしている。 <p>本時の課題を確認する。</p>	学級全体		<p>登場人物の表記を再度確認し、混乱を避ける。</p> <p>話の流れは、あらすじ程度におさえ、細かな内容までは入らないようにする。</p> <p>読みの視点について再度確認する。</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ひとつ聞いてもらおう」という「僕」(客)には、どんな気持ちがあるのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点について確認をする。 <p>一人読み</p> <p>「僕」(客)の心情が分かる本文の表現を見付け、自分の読み取りをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自自分の考えを、学習プリントにまとめて書く。 ・分からないことや気になる表現なども書き出しておく。 <p>全体交流</p> <p>この場面での「僕」(客)の気持ちを、表現を根拠に発表する。</p> <p>言葉・会話から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熱情的」なほど収集していたのに、それを「けがしてしまった」といっているのであまりいい話ではない。 ・「不愉快」「早口」からは辛い思い出なのでは。 ・自分から頼んだのに「もう、結構」といったので、見ているうちに苦しくなったのでは。 <p>行動・しぐさから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「微笑」は苦笑いと考えるとあまりいい話ではない。 ・「巻きたばこをわたしに求めた」て心を落ちつかせようとしている。 <p>情景描写から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やみ」からは、よほど暗い過去があって、少しも心は晴れていないようだ ・「かえるの…」から静かな様子だ <p>こんな言葉・行動・情景描写から、話すのも恥ずかしい話を始める客の気持ちはどんなものがあるのだろう。</p>	個人	<p>エー</p> <p>思い出を語るにはあまりに苦しくつらい「僕」の心情を、言葉や会話しぐさや行動、言葉、情景描写に着目して理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察・発言 <p>学習プリント「僕」の心情をしぐさや行動、言葉、情景描写の表現を用いて理解しているか評価する。</p>	<p>それぞれの視点からの考えを、わかりやすいように板書に図式化し、言葉と言葉のつながりを考えさせ、発言していくよう助言する。</p> <p>表面的な捕らえの生徒に対して適宜切り返して発問していく。</p> <p>根拠になる言葉を必ず入れるよう確認する。</p>
終末	<p>授業のまとめを書く。</p> <p>お互いの顔が闇に沈んで見えなくなってしまうような暗さの中や、かえるが遠くで闇一面に鳴いているのが聞こえるような静かな場面から、客はつらく、苦しい過去の出来事を自分自身で告白しているような気持ちで語り始めた。</p>	個人		<p>交流で出された言葉や、仲間の意見から新たに分かったことなどをふまえて、200字程度のまとめとなるよう確認する。</p>

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

エー

思い出を語るには、あまりに苦しくつらい「僕」の心情を、言葉や会話・しぐさや行動・情景描写に着目して理解している。

(2) 個に応じた指導の実際

課題に対して一人読みをしている段階で、表現を表面的にとらえ、「こんな感じ」という読み取りをしている生徒には、表現に着目させることを助言した。読み取る視点として、「言葉や会話」「しぐさや行動」「情景描写」を確認し、該当する言葉に線を引かせ、言葉の意味を辞典で調べさせたり、なぜそのような表現が使われているのかを考えさせたりした。また、表現一語から考えるというような単発的にならないように、同じ内容の表現や違いを考えさせ、言葉をつないで心情を考えさせた。また、授業の終末で板書されたものの中から、重要と思われる表現に赤丸をつけ、必ずその表現と、根拠となる文章中の表現を結んで、書きまとめるように指示した。

「このような言葉・行動・情景描写から、話すのも恥ずかしい話を始める『僕』(客)の気持ちはどのようなものがあるのだろうか。」という問いに対して、A子は、

「主人と客の会話から、苦い思い出が、あまりよいことではないと思った。そして、この客の周りの風景は、暗い、やみ、静かという言葉から、そんなにつらいことなどがあったのだと思う。会話からも淋しい思いを感じた。」とまとめた。このまとめから、「苦い思い出」や情景の言葉からのみ、つらい思いと判断して書いていると考え、「努力を要する」状況と判断した。そして、机間指導の中で、なぜそのような思いになったのか、適切な表現を結んで考えまとめるように助言した。また、授業の中で取り上げられた言葉だけをつないで書きまとめているので、そこから考えられる自分の思いもつけ加え書くように援助した。

また、B男は、

「『僕』の『もう結構』などの言葉から、僕の思い出はあまりよくない思い出だったのだと思う。情景では、暗い、やみという感じがほとんどで、そこからも同じように『僕』の思い出は、暗い思い出というイメージだった。『僕』は、ちょうは見せてほしいくらい好きだけれど、自分の苦しい思い出がよみがえり、素直に見ることができないでいたのだと思う。」とまとめた。このまとめから、根拠となる表現やそこから考えられる心情を自分の言葉で適切に書かれていないと考え、「努力を要する」状況にあると判断した。そこで、書きまとめの時間の中で、暗い思い出と読み取るための根拠となる表現から、全体交流で出された考えと比較しながらまとめて書くように援助した。

(3) 授業後の評価

授業の終末で、本時の書きまとめの場面を設定し評価した。字数を150字に設定し、必ず根拠となる文章中の表現をもとに、全体交流で明らかになった読みを必ず加えて書きまとめるよう指示した。

授業後に、一人一人のまとめを読み直し、表現だけが羅列してあったり、根拠となる表現が書かれず読み取りが書かれてあったり、表現と表現を結んでそこから読み深めたことが書かれてあるかどうかを、一人一人のまとめの文章から評価した。

その結果、多くの生徒が、

ちょうを見て、「もう結構」といった僕は、自分の思い出を恥ずかしく思っていて、しかも、自分でもつらくなってきてしまうからではないかと思う。また、「闇に一面にかえるが鳴いている」という場面から、しんとしていて、静かであることが伺えるし、闇や青い夜、沈んでなど暗い感じの情景なので僕の心の中も暗く静かで沈んでいるのではないかと思う。」

のような文章中の表現を根拠に、読み取れる心情を具体的に自分の言葉で書きまとめることができた。反面、表現を単発的にしかとらえられず、文章中の表現を結んで考えることがややできなかった生徒も少数いたので、次時の授業での一人読みの際に、学習プリントに横線を引かせるなど、表現の結びつきも意識させて読ませたいと考えた。

また、個別指導をしたA子は、

僕にとって、ちょうの思い出というのは、「やみ」「青い夜の色」「うす暗がり」という表現から、とてもつらく、悲しいものだったんだなあと思った。しかも、ちょうの思い出を汚してしまったことを自分自身がよく分かっていることなので、さらに苦しみがつのっていきなあと思う。そのつらい出来事を主人(わたし)に話すことはとても勇気がいることだと思うけれど、話せば閉ざされている心が少しは開いていくと思ったのだ。

と、まとめを書いていた。最初よりも、適切な表現を結び、言葉と情景描写をつないで、心情を読み深めてまとめを書くことができていたので、最終的に「おおむね満足できる状況」にあると判断した。